

# 少年院退院後の受け入れから 現在の生活について

日中サービス支援型グループホーム

NPO法人カラフル 代表

大山剛

# GHカラフルについて

---

- 施設の特徴
- 主な利用対象者
- 定員
- 日中活動など

# ご本人に関する情報

---

- 性別
- 年齢
- 障害手帳など
- 少年院入院までの経緯

# 受け入れ相談

- 相談支援事業所からの初めの相談を受ける
    - ⇒ 事業所として受け入れられる方の条件を伝える
  - 地域生活定着支援センターからも面接での様子など含め情報提供
  - 現場職員の不安
  - 情報不足
- ⇒ 顔が見えない不安  
どの様な支援や環境が必要か  
本人はどんな暮らしをしたいのか、何をしたいのか

※不安、情報不足

# 会ってみないとわからない

## 面接

- ・テレビ面接を2回
- ・本人から得られる情報だけではなく、少年院での担当職員からの情報提供
- ・関係機関も面接に同席しての情報共有・役割の確認

## 見立て

- ・年相応の感覚
- ・礼儀正しい
- ・引きこもり
- ・模範解答はできる(理解力はある)
- ・善悪の判断はできる

## 受入れ準備

- ・どのように環境を整えるか等の支援の仕方をイメージできた
- ・職員との情報共有
- ・関係機関との連絡や協力の依頼

# 受け入れてみて

---

## 約束事の確認

- 個人記録とは別の記録ノート
- ゲームの時間を決める
- 職員と2人で話す時間をもつ
- パニックになるための要因を少なくする

## 生活の様子

- 今までの抑圧された影響
- 3ヶ月の保護観察期間

# 本人の思い・家族の思い・施設の思い

## 保護者の意向

- ・外に出さない
- ・人との接触の少なく
- ・ネットは禁止
- ※問題を起こさないように支援してほしい

## 本人の思い

- ・引籠っていたい
- ・絵を描きたい
- ・人と話がしたい
- ・SNSがやりたい

## 施設の思い

- ・安心・安全な暮らしであるが普通の暮らしと言えるのか
- ・楽しく暮らしてほしい

本人は保護者の説得で納得して、  
いろいろなことに取り組めていないままでいいのか!!

# 半年たって

---

## 本人の様子

- ちょっとしたイベント  
(トラブル)
- 生活・活動範囲が広がってきた
- 少しづつ要望が増えてきた

## 支援者の見立て

- 今の生活をどのように感じている  
と思うか
- なぜ生活を続けることができ  
ているのか
- 日中支援型の支援が本人に  
合ったからか

# 現場職員の声

---

入居前

入居時

現在

今後

# リスクマネジメント

---

## 少年院からの 情報

- クライシスプラン作成
- プランを本人が納得している

## 精神科の協力

- 定期受診
- 緊急時の入院の協力

## 少年鑑別所の 協力

- 心理的な見立て
- 少年院入院前からの  
のかかわりの継続

## 母親の協力

- 情報提供と相談
- 本人との信頼関係

# 受け入れてみて今思うこと

---

- 支援で大切にしていること
- 職員の認識
- 障がい者の触法